

## 目次

目次・編集方針	1
大和証券グループの概要	2
大和証券グループの事業内容	3
トップメッセージ	5

### 重要課題報告

大和証券グループの社会的責任と重要課題	7
重要課題① 投資に社会的視点を	11
重要課題② 健全な証券市場の発展に向けた取組み	17
重要課題③ 地球環境への取組み	19
重要課題④ 持続可能な社会に向けた情報発信	21

### マネジメント報告

CSR課題・実績と目標	25
コーポレート・ガバナンス	27
CSRマネジメント	29
コンプライアンス	31
情報開示(ディスクロージャー)	33

### 社会性報告

お客様満足への取組み	35
人の尊重と人材の活用	37
企業市民としての取組み	43

### 環境報告

大和証券グループの環境負荷	47
---------------	----

### 経済性報告

ステークホルダーとの経済的かかわり	49
-------------------	----

---

第三者意見	51
大和証券グループ CSR活動のあゆみ／お問い合わせ先	53
第三者評価／『大和証券グループ 持続可能性報告書2008』冊子版とウェブサイト版	54

## 編集方針

本報告書は、大和証券グループによる持続可能な社会の構築に向けた活動に関する情報を、できるだけわかりやすく誠実に開示することを目的に、2002年から継続的に発行しています。また、私たちの取組みの現状と課題を自己チェックすることも、本報告書を制作する重要な目的のひとつだと考えています。

大和証券グループは、特にステークホルダーの意思決定や社会への影響が大きいと考えられる事項を、CSR\*1における4つの重要課題として特定しています。本報告書では、これらの重要課題に関する取組みの進捗報告に重点を置いています。また、大和証券グループの経営の根幹にある「働きがいのある会社にする」という方針と、これを実践する取組みについて説明しています。

本報告書は、持続可能性報告書の国際的なガイドラインである、GRI\*2の「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」を参考にしています。また編集にあたって、特に「役員への浸透」と「ステークホルダーとの対話」を強く意識しています。

\*1 CSR (Corporate Social Responsibility) : 企業の社会的責任  
\*2 GRI (Global Reporting Initiative) : サステナビリティレポートの国際的なガイドラインを立案し、普及させることを目的とした団体。世界各地の企業、NGO、コンサルタント、会計士団体、事業者団体などのマルチ・ステークホルダーが参画し、1997年秋から活動。

## 本報告書の対象範囲など

### 対象読者:

主にお客様、株主・投資家、役職員をはじめ、取引先、NPO/NGO(非営利組織)、全国の大和証券本支店の属する地域社会、教育機関、役職員の家族など、大和証券グループの幅広いステークホルダーの方々です。

### 報告対象範囲:

原則として当社グループ主要9社\*(主要9社で全従業員の約90%をカバーします)。ただし、全項目について9社すべての情報を網羅しているわけではなく、各社の規模や事業内容などに応じて記載しています。2007年度の本社移転に伴い、環境負荷データの対象範囲が変更となりました。数値データには、それぞれの対象範囲を明記しています。

### 報告対象期間:

2007年度(2007年4月~2008年3月)。一部には2008年度や2006年度以前の活動情報も含まれています。

### 発行時期:

2008年8月(前回2007年9月 次回2009年6月予定)

\* グループ主要9社については「大和証券グループの事業内容」(P.4)をご参照ください。